

## 都・建設予定地 生活記 (5)

あまり良く知られていないインドの西・グジャラート州で生活しながら、なんとかこの片田舎を都にしてみようと足掻く僕的生活記。

---

「肉も食べられないし、お酒も飲めない。しかも暑い。グジャラートの何がいいの？」と聞かれたら、とりあえず「うん、まあ、インフラは整っているよ」と答えることにしている。道は整っているし、断水もまだ経験したことがない。停電だって、ほかの都市と比べればずいぶん少ない。そのへんで補ってもらわなければ本当に答えに窮してしまうので今後も頑張ってもらいたいところだ。

だが、もちろん、ここはインドだ。停電がないわけではない。

とうとう恐れていた夏に入った。

僕の部屋にエアコンはなく、簡易クーラーのようなものを取り付けられてあったただだ。点けたところであまり効果もなく、稼働時の熱と相殺しているのでは、という疑問のわく代物だ。とは言え、問題なく動作はするし、点けないよりは涼しくなった（ように感じた）ので「こんなものか」と思っていた。

先日の夜、停電が起きた。

当然、簡易クーラーも止まったのだが、止まる瞬間、無理やりファンを抑えつけたような「ガガガ」という奇妙な音がした。数十分後、電気が復活した後も簡易クーラーの電源が点くことはなかった。「ガガガ」は断末魔の悲鳴だったらしい。

どうせ大した効果があるわけでもないのに、直してもらうべきかどうか迷った。だが「簡易クーラーも点かない部屋」というだけで気温が数度上がってしまった気がした。「涼しい気がしないこともない」に慣れてきた人間にとって「涼しくない」は耐えられないものがあった。管理人に言って修理してもらうことにした。

付け替えてもらって驚いた。このクーラー、涼しいぞ！

停電で壊れてしまったものはどうも冷房機能も壊れていたらしく、新しい簡易クーラーにしてからと言うもの明らかに涼しい。もちろん一般的なエアコンとは比べるべくもないが、それでも天井扇を点けずに寝られるのだから相当な涼しさだ。停電がなければ、壊れていることに気付かないままだったはずだ。昨年同様、濡れタオルの気化熱で寝るところだった。

停電さまさま、である。

さて、この前もまた停電があった。

照明が落ち、冷蔵庫の稼働音が止まる。簡易クーラーも止まる。せつかくそれなりに涼しくなっていた部屋がどんどん温度を上げていく。座っているだけで汗がでる。「涼しい」に慣れた人間に「暑い」が耐えられるはずもない。

まったく、停電中のグジャラートとか、ろくなもんじゃあない。

---

プロフィール：滝口浩平

2010年から約1年間のデリー留学を経て、東京外大ヒンディー語専攻卒業。色々あって塾・予備校の市進に雇われ、また色々あってインド現地法人 Ichishin India Consultant.Pvt.Ltd 社員となる。更に色々あって日本語教師として Pandit Denndayal Petroleum University (PDPU) で教鞭をとる。第29回織田作之助青春賞受賞。